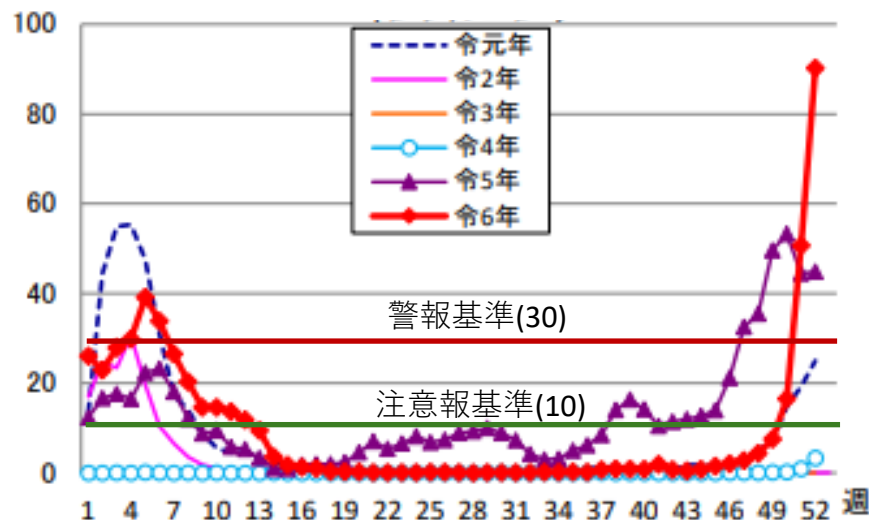


令和6年の感染症発生動向等について

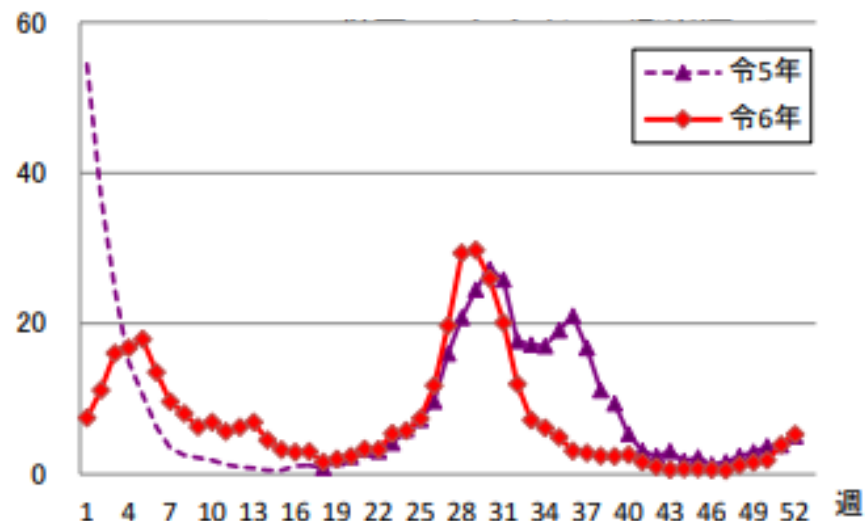
定点把握感染症 ①

(1) インフルエンザ・コロナ定点報告

インフルエンザ



新型コロナウイルス感染症



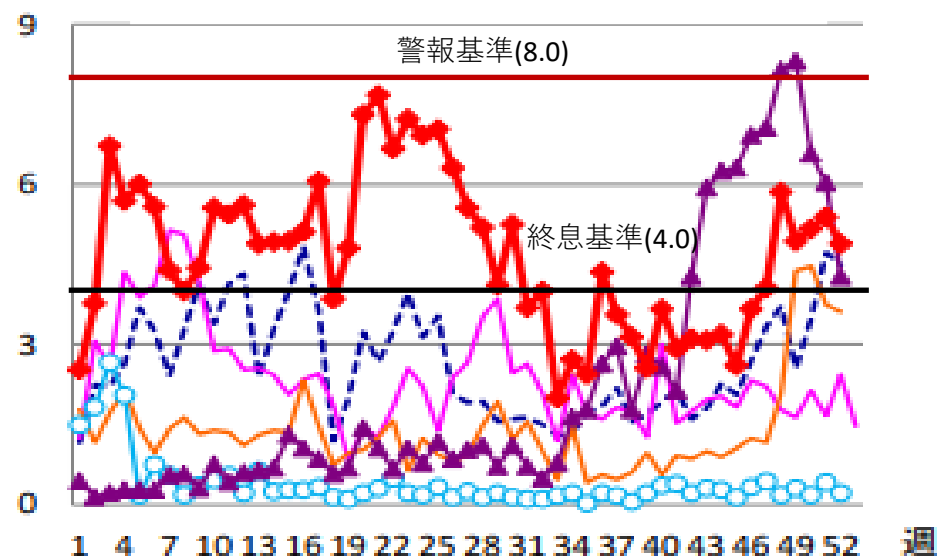
インフルエンザは、令和5年末からの流行は例年どおり春には終息を迎えた。今冬の流行は、12月に入って感染が急拡大し、年末の定点あたり報告数は90.2と過去2番目の高さとなった。

新型コロナウイルス感染症は、1月末と7月末に感染のピークを迎えた。さらに、今冬も昨年同様、12月以降、報告数の増加を認めている。

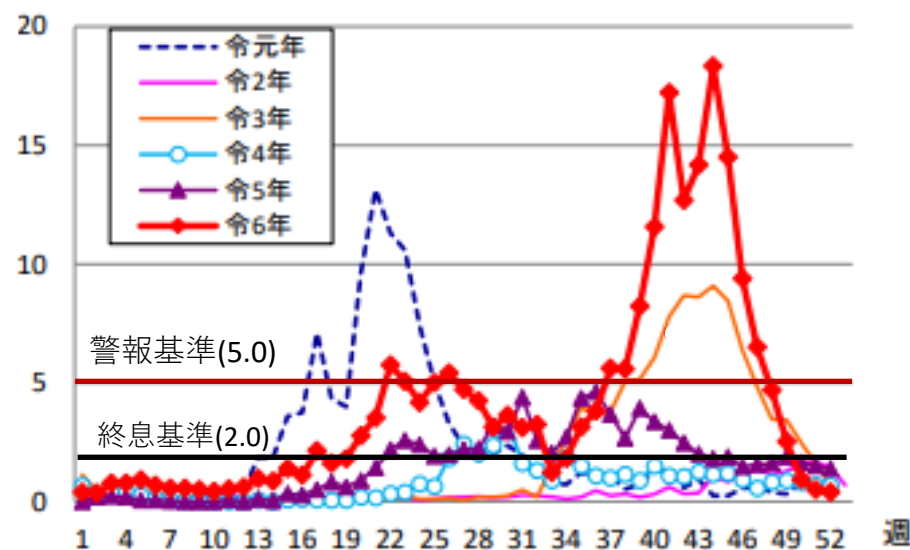
定点把握感染症 ②

(2) 小児科定点報告

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



手足口病



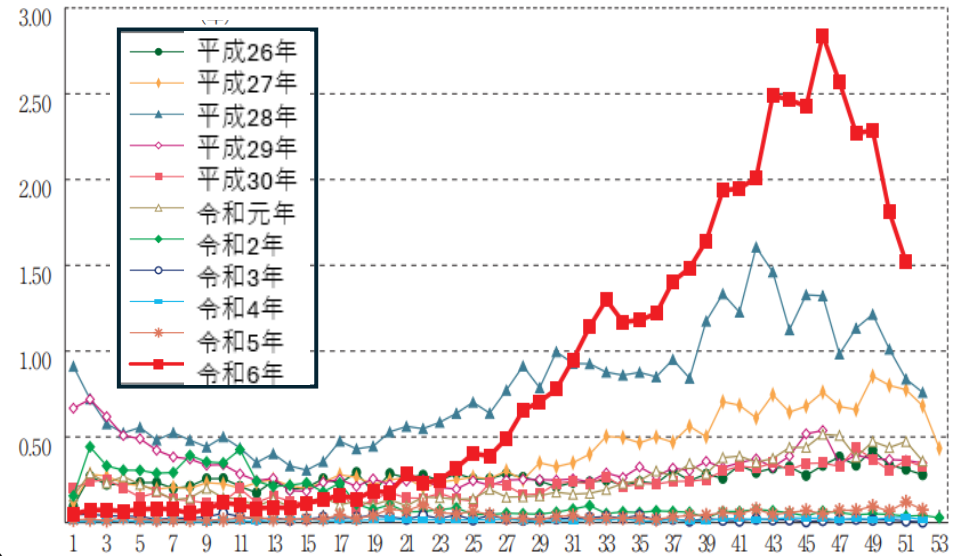
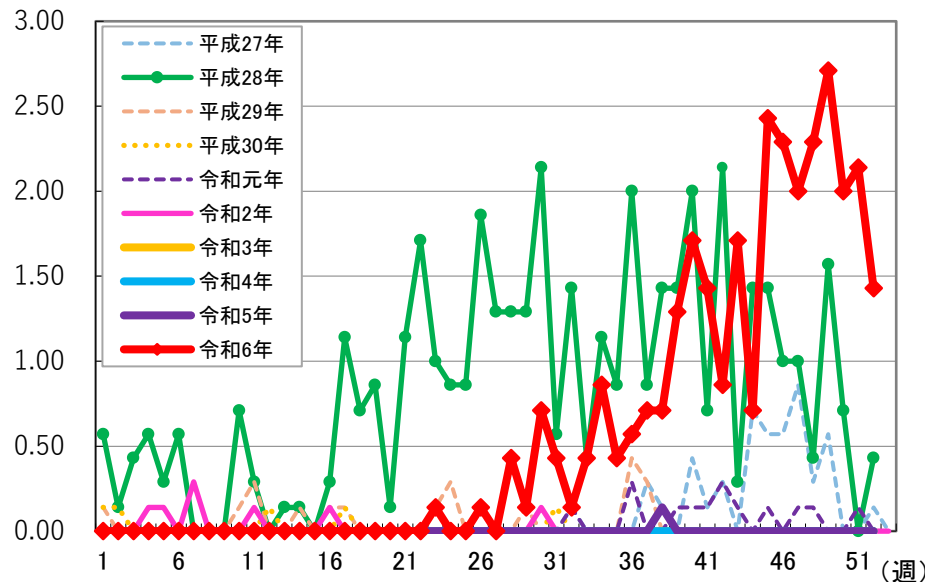
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、令和5年の秋から急増し、その後令和6年夏場まで断続的に流行が持続した。

手足口病は、5月～7月と9月～12月の2回、警戒基準を超える流行が生じた。特に10月末には過去最多の報告数（18.3）となった。

(3) 基幹定点報告

マイコプラズマ肺炎

(参考：全国値)



マイコプラズマ肺炎は、これまでも3～7年程度の間隔で流行を繰り返していたが、令和2年以降はコロナに対する感染対策が推奨されたこともあり、国内外で報告数が減少。

感染対策の緩和後、国外では令和5年から、国内では令和6年の春頃から報告数が増加。本県でも全国同様に増加し、12月には過去最多の報告数（2.71）となった。

全数把握感染症 ①

【令和6年に報告された疾患の推移】

上段：県内の報告数 下段：全国の報告数
 ※1 県内報告数：令和6年診断の報告数
 全国報告数：令和6年週報の累積数
 （R7.1.22時点集計値）

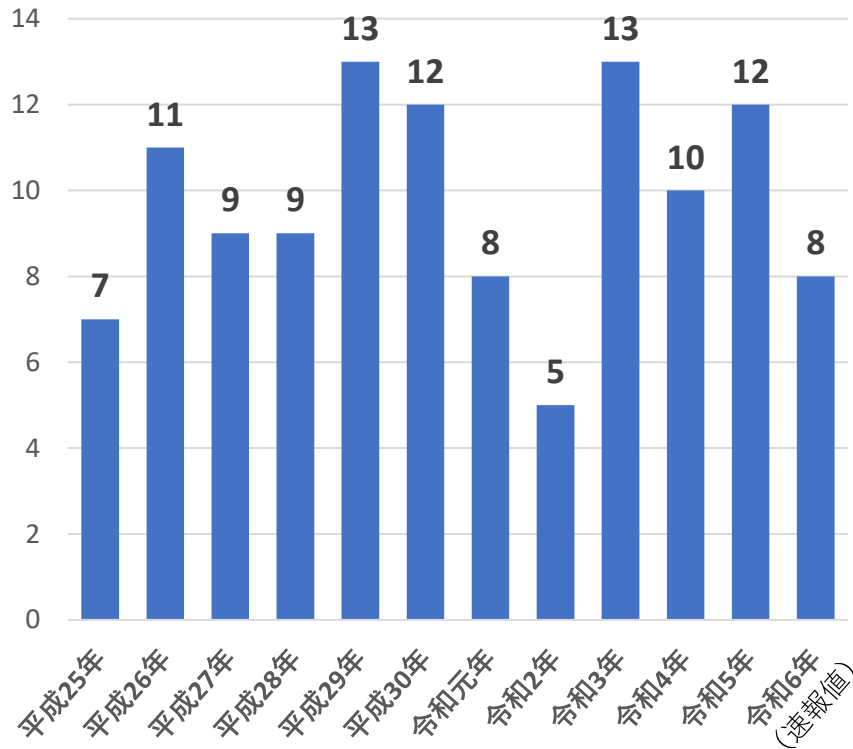
分類	疾病名	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年※1
2類感染症	結核	194	152	130	123	105	106
		21,672	17,786	16,299	14,798	15,377	15,820
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	42	23	29	66	27	45
		3,744	3,094	3,243	3,370	3,826	3,743
4類感染症	A型肝炎	3	7	0	0	0	1
		425	120	71	69	56	137
	E型肝炎	1	3	5	2	1	4
		493	454	460	435	552	527
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	8	5	13	10	12	8
		101	78	110	118	134	120
	つつが虫病	43	57	72	41	33	34
		404	538	544	492	445	352
	日本紅斑熱	8	13	19	12	14	16
		318	422	490	457	500	521
	レジオネラ症	8	9	13	5	9	16
		2,316	2,059	2,133	2,143	2,291	2,422
	レプトスピラ症	-	1	-	3	2	1
		32	17	34	38	49	53

全数把握感染症 ②

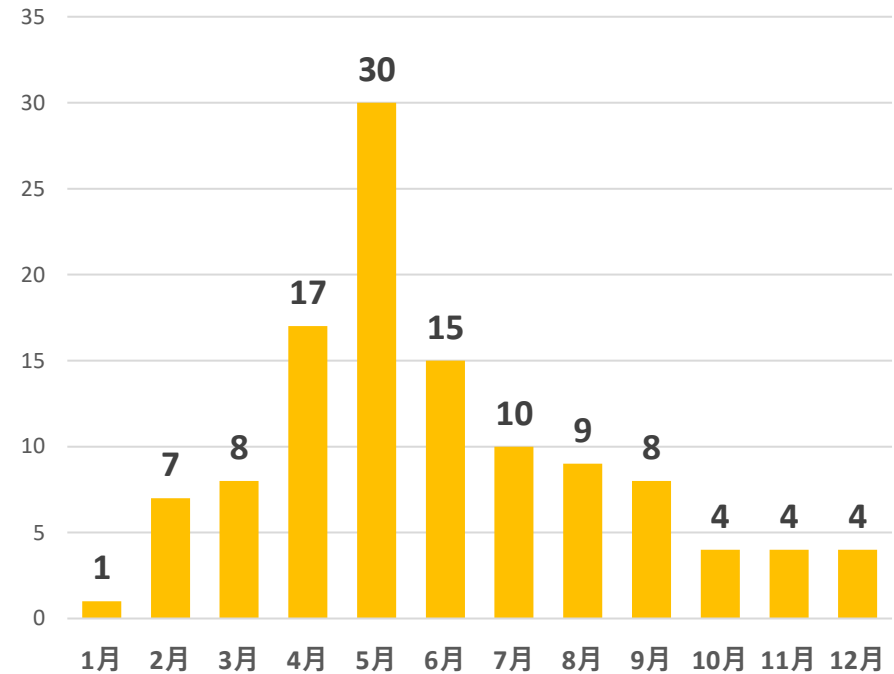
分類	疾病名	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年※1
5類感染症	アメーバ赤痢	4 853	8 611	3 537	2 533	4 489	5 520
	ウイルス性肝炎	4 331	6 246	4 203	6 211	7 244	3 226
	カルバペネム耐性 腸内細菌感染症	14 2,333	3 1,956	5 2,066	9 2,015	3 2,113	4 2,286
	急性脳炎	3 959	4 491	- 338	3 399	4 661	1 628
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 193	3 157	1 179	1 172	4 170	4 172
	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	11 894	6 718	5 622	3 708	6 939	21 1,891
	後天性免疫不全症候群	5 1,231	5 1,094	5 1,053	4 893	5 948	3 1,000
	侵襲性インフルエンザ菌 感染症	1 543	2 253	4 194	2 211	3 566	4 648
	侵襲性肺炎球菌感染症	12 3,344	10 1,655	7 1,405	10 1,347	15 1,987	16 2,546
	水痘(入院例)	1 492	9 362	4 301	4 327	4 405	5 485
	梅毒	23 6,642	40 5,867	89 7,978	116 13,221	166 15,055	162 14,772
	播種性クリプトコックス症	2 156	2 152	4 163	6 159	5 173	6 190
	破傷風	3 126	5 104	7 93	5 96	2 109	2 86
	百日咳	304 16,845	37 2,819	2 707	15 491	5 1,000	58 4,076

SFTS(重症熱性血小板減少症候群)

年別報告数



発症月別累積報告数(平成25年以降)



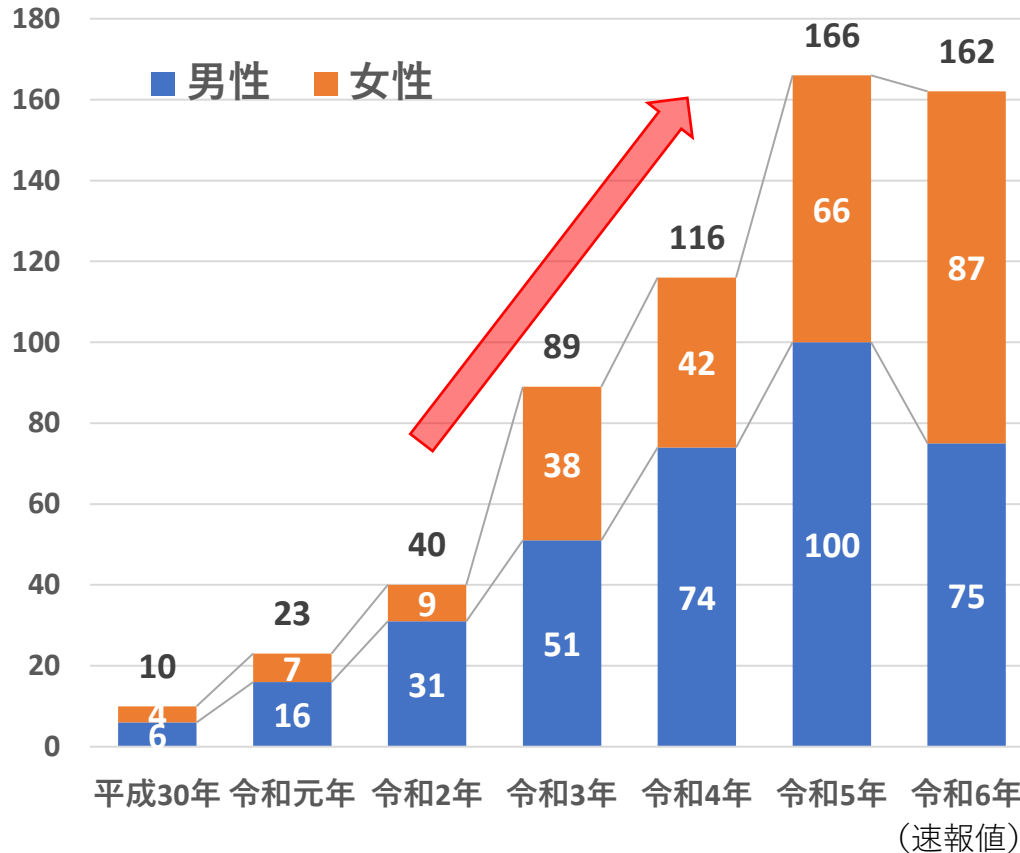
令和6年の本県報告数は8件。

全国数は120件で、静岡県以西で報告されており、約4割が九州からの報告となっている。
例年、春から秋にかけてマダニの活動が活発になるためSFTSの患者数も増加する。

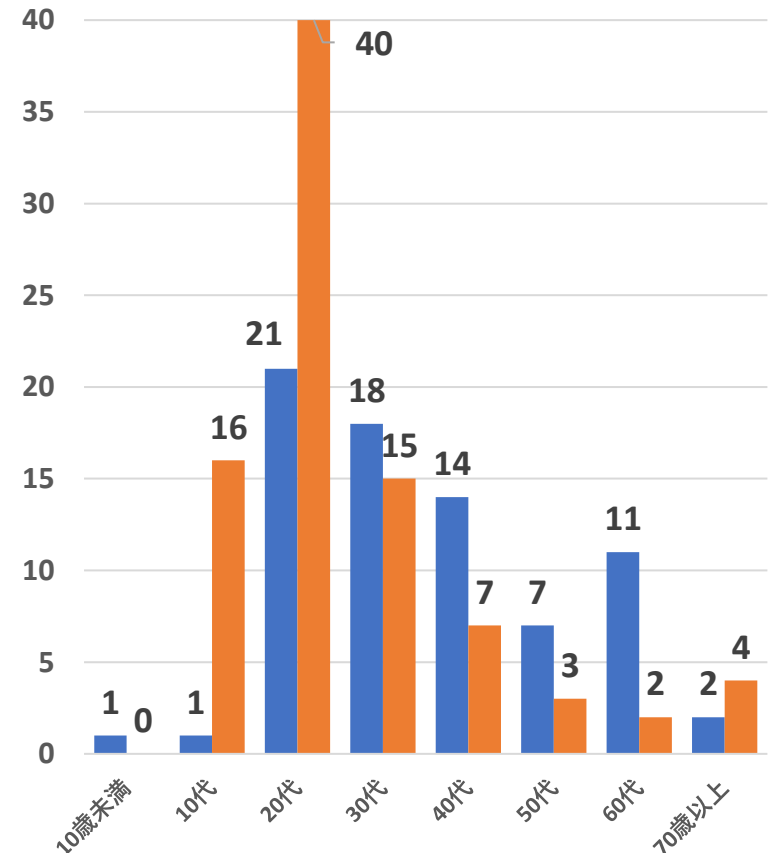
※SFTSとは、マダニに刺されることにより感染するダニ媒介感染症。

梅毒

診断年別報告数の推移



年代別梅毒報告数 (令和6年速報値)



令和6年の報告数は162件。コロナ禍を経て感染者が急増しており、過去最多となった昨年と同等の報告数(昨年同期98%)で高止まりしている。

なお、令和6年は女性の比率が男性を上回り、特に、10代・20代女性の報告数増加が顕著であった。

感染症対策の取組

➤ 県民や医療関係者等が一体となった感染症対策の推進

- ・ 感染症の発生動向の把握、分析と公表
- ・ 流行状況に応じた注意喚起
- ・ 感染対策の周知・啓発

➤ 感染症の発生予防及びまん延防止の推進

- ・ 市町村が実施する定期接種ワクチンの促進

集団の感染予防・まん延予防：麻しん、風しん、HPV感染症、ロタウイルス、小児の肺炎球菌感染症等

個人の発症予防・重症化予防：インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、高齢者の肺炎球菌感染症

- ・ 梅毒等性感染症無料匿名検査の実施

冬の感染流行を見据えた
注意喚起

令和6年10月31日

知事定例会見

インフルエンザ流行期の
感染対策 SNS啓発



蚊・ダニ媒介感染症予防
啓発ポスター



結核早期発見
啓発ポスター



麻しん・風しん予防接種CM



HPVワクチン啓発CM・シネアド



梅毒・HIV無料匿名検査
SNS啓発、繁華街での大型ビジョン広告、街頭キャン
ペーン(チラシ配布等)

